

平成26年度島根県公立高等学校入学者選抜学力検査結果の概要について

【全般】

本検査は、中学校学習指導要領に沿った日頃の学習で積み上げられた基礎学力を測るものである。問題作成にあたっては、知識・技能だけではなく、思考力・判断力・表現力等を問うものとなるよう配慮した。

平均点と得点分布状況は別紙のとおりである。5教科の平均点は257.0点で、昨年度に比べて14.6点低い。各教科の昨年と比べた平均点の変化は、国語（－3.4点）、社会（＋2.6点）、数学（－9.9点）、理科（－3.8点）、英語（－0.1点）である。

【国語】

文章量の多い問題にも根気よく取り組む態度や、限定された範囲で読解する力については、中学校での学習の成果がみられた。中でも古典については、基本的な知識が身につく、内容の理解につながっていることがうかがえた。しかし、出題の意図や条件を踏まえて的確に答える力や適切な言葉を選んで使う力には個人差がみられ、漢字等の正確な表記にも課題が残った。今後は、国語の言葉の特徴やきまりに関する基本事項を押さえた上で、必要な情報を選択し条件に応じて適切に表現する学習の一層の充実が必要である。

【社会】

資料から有用な情報を適切に選択する技能は概ね身につけている。しかし、基礎的・基本的な知識の定着については十分でなく、特に歴史的分野でその傾向が顕著であった。また、社会的事象の意味や意義などを多面的・多角的に考察して記述する力についても課題が残った。基礎的・基本的な知識の確実な定着と、それを活用して思考・判断・表現することができる力の育成が必要である。なお、竹島に関する問題の正答率は93.3%であり、竹島に関する学習の成果がうかがえた。

【数学】

数と式の計算、場合の数と確率などの基本的な技能に関しては概ね定着しており、学習の成果がうかがえた。一方、用語、定義の理解や基本的事項を活用する力については定着が不十分な部分が見られた。具体的には、文章を読んで事象を関数として捉え立式する力や、グラフ上の図形で考えて問題解決していく力などである。加えて、思考したことをわかりやすく説明する力についてもさらなる育成が必要である。

【理科】

基本的な知識・理解を問う問題についての正答率は全体的に高かったが、基本的事項であっても深い理解や思考力を要する問いに対しては正答率が低かった。また、計算問題や記述問題では正答率の低さに加え無解答も多かった。自然の事物・現象を学習する際、その背景に存在する規則性や多様性について主体的に探究しようとする姿勢と、図やグラフ、数式、文章によって論理的に表現する意欲や能力を育成する必要がある。

【英語】

放送による英語の聞き取り問題の正答率は高かった。短い英文の中にある未知の語句の意味を類推する問題も高い正答率であった。また、与えられた場面やテーマについて、その場にふさわしい表現や自分の考えを英語で書く問題についても、部分得点者を含めた得点率は高かった。一方で、英文を読む問題では、筆者の意図、主張や話の要点を的確に読み取る力が不足していた。また、英語を聞いて考え、答えを英語で書くような、複数の技能を統合した問題の正答率が低く、聞いたり読んだりしたことを、話したり書いたりする活動につなげるなど、4技能の統合的な言語活動を充実させる必要がある。